寄付者芳名

（平成16年9月～平成17年1月）

壱百萬円
入間市　仲輝三

五拾萬円
新座市　大和田講中

参拾萬円以上
足立区　寛麗会
小平市　回り田講中
川崎市　神地講中

弐拾萬円以上
川崎市　中丸子講中
群馬郡　金古俵組講中
西立野氏子会
古谷上宿講中
赤堤講中
川越市　北島秀浩
世田谷区　清源御嶽講中
北区　細山坂東御嶽講中
厚木市　三ッ木宿講中
川崎市
武蔵村山市

壱拾萬円以上
所沢市　狭山ヶ丘講中
入間市　上谷ヶ貫講中
入間市　高倉講中
奥多摩町　丹三郎講中
川越市　並木講中
富士見市　山室講中
練馬区　阿川哲夫
足立区　市川澄代
青梅市　岡部満男
横浜市　上郷町講中
青梅市　進藤晃
日本書鏡院
夏期講習生一同
狭山市　水中御嶽講中
青梅市　峯岸幸雄
東松山市　島田国吉

五萬円以上
狭山市　広瀬西方講中
愛甲郡　下之街道講中
飯能市　落合講中
鴻巣市　寺谷講中
昭島市　拝島坂上講中
町田市　上野トシ子
富士見市　木染講中
川越市　牛子講中
あきる野市　戸倉西部講中
鴻巣市　箕田講中
朝霞市　鈴木肇子
立川市　立川日の出講
立川市　伊藤博
横浜市　中田町講中
鶴ヶ島市　藤金講中
日高市　藤川講中
平塚市　真土今里講中
所沢市　宮崎正春

新座市　羽村市
上福岡市　羽村市
日野市
参萬円以上　板橋区
足立区　羽村市
青梅市　瀧伸明
さいたま市　所沢市
野木市　町田市
日野市　田中太市
川島町　中島美樹
所沢市　梨木芳太郎
加須市　飯能市
厚木市　川口市
平塚市
あきる野市
小田原市
武蔵村山市
入間市

㈱高野土地　須崎貞之
鈴木建治　須崎裕一
鈴木邦夫
田上和子
浅井正夫　濱中宗祐
荒井清一郎　原田敏夫
小川正男　森泉安八
金井益雄　原田博文
小林幸一　和田清次郎
斉藤昭夫　㈲サンベアー
澤田てる　諸井美知子
多門寺講中
㈲田中伴作商店

（金額・受付順　敬称略）

弐萬円以上
文京区　金子祐輔
所沢市　澤田一夫
飯能市　鈴木通詮
所沢市　関口嘉一
所沢市　関口美代子
川崎市　土井智幸
所沢市　深谷正雄
練馬区　㈲学園自動車工業所

壱萬円以上
札幌市　NHK青山太極拳教室
伊勢原市　相原秀男
伊勢原市　青木孝行
久喜市　足立公平
小田原市　荒井精重
江戸川区　石井盛正
小田原市　石井信男
横浜市　市川隆
町田市　伊藤和男
町田市　上野弘
豊島区　上野美穂
川崎市　小川勉
山北町　小倉信義
海老名市　加藤馨
東村山市　川島その
富士見市　肥沼常作
小田原市　島村登詞男
菅沼一雄

式年大祭 記念事業竣工

総工費一億八千萬円

一、大鳥居建替
一、避雷針新設
一、幣拝殿屋根銅板葺替
一、随身門屋根銅板葺替
一、宝物殿外部塗装
一、表参道鳥居塗装
一、放水銃新設
一、日の出祭用神輿購入
一、参拝者用トイレ新設
一、向拝敷石工事
一、境域花木植栽事業

第三十二回武蔵御嶽神社奉納俳句入選作品

選者　金子千侍

特選

一席　煤太りせし御師の炉の自在鉤　入間市　増岡徳蔵
二席　杉山の杉の総立ち初日浴ぶ　青梅市　中村ゆき子
三席　本殿に忘れてありしサングラス　新宿区　立本美知代
四席　朝風呂や初音に耳をあづけをり　高崎市　青木俊子
五席　秋灯の太刀に流るる神楽舞　羽村市　岩波浩吉郎

秀逸（出句順）

衣擦れの音大神に春告げる　新宿区　伊佐大蔵
木の芽立つ枝々にみくじの花咲けり　飯能市　森泉双輪
山彦の飛びかふ山の笑ひけり　青梅市　吉田由治
茶店にも忘れ傘あり梅雨晴間　川崎市　川嶋雅昭
沢蟹が雨の参道韋駄天に　青梅市　坂田かほる
御師の畑家族総出の大根引　青梅市　宇島キミ子
節太の手締めで決る達磨市　日の出町　島﨑百合子
狛犬の阿吽をつつみ虫しぐれ　八王子市　大串若竹
藪一間借りて色づく烏瓜　新座市　長谷川栄子
神殿を背らに笹子鳴き移る　入間市　近藤芙蓉

佳作（出句順）

老杉の参道かけ抜く春一番　練馬区　農塚宏道
謡吟にさえずり返すいかるかな　八千代市　橋井清子
五月晴荷台に乗せた獅子頭　あきる野市　田島正宏
野蒜摘む一つの笊に御師夫婦　青梅市　原島康典
万緑の御嶽に神棲む風の棲む　青梅市　藤﨑嶺雲
ケーブルの空斜めなる青くるみ　東久留米市　榎本慶子
紅梅や峡に名残りの塩のみち　青梅市　木口ヒロ子
店頭に蕎麦切る音や秋深し　青梅市　津布久信雄
竜田姫多摩に下りて山染めぬ　座間市　井上義久
元朝や額重なりて御師の宿　国立市　中西義昌

応募総数　六五八句

選者吟

炎帝の樹に玉虫の生みに来る

奉納俳句選評

特選一席
（煤太りせし御師の炉の自在鉤）
自在鉤は炉の中央へ天床から吊り下げられて上げ下げが調節出来、鉄瓶・鍋を懸けられて煮炊き、なんでもござれです。百年二百年と経た御師のお家の自在鉤。正に煤がま黒についた歴史の塊りです。作者の怜悧な感性は、これを「煤太り」と詠みました。何とも凄い言葉の発見です。

特選二席
（杉山の杉の総立ち初日浴ぶ）
枝打ちをされて長い、すらっとした足の美しい杉の山。今、杉は初日を一杯に浴びて総立ちになった。初日へのスタンディング・オベーションです。作者の感動は句のもつ五・七調の軽快なリズム感に一段と増幅します。

特選三席
（本殿に忘れてありしサングラス）
ギラ〳〵した炎天下を登り御嶽神社の本殿に着きました。涼風と静寂に包まれた神前に額衝き、身も心も洗われる思いです。そして満足感一杯で下山していきました。そのときサングラスはもはや無用のものとなっていたのでせう。日常時の軽快なアイロニーのドラマが、見事に十七語に集約されたのでした。

特選四席
（朝風呂や初音に耳をあづけをり）
何とも気持良い朝風呂、閑かに浸り瞑目しておりますと、突如聞く鶯の声、これは初音だ。心踊る思いです。さて次の声は、一心に耳を傾けている作者。朝風呂と初音、誰しも羨やむような情景が実写されております。

特選五席
（秋灯の太刀に流るる神楽舞）
神前に秋祭の神楽舞が奉納されております。篝火と蠟燭によって闇を押しのけた舞台で舞う太刀の身に、折々灯が乗り、流れてきらきら輝くのでした。神秘的な荘厳な神楽舞が秋の灯を連れて詠まれました。

第三十三回 奉納俳句募集要項

一、作品は未発表に限る
一、受付けは指定用紙にて投句箱へとする
（郵送等直接の受付は致しません）
一、締切りは平成十八年一月十五日
一、発表は平成十八年三月中旬